

【辰野町】校務DX計画

2025年3月

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	※留意事項
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	0%	100%	100%	100%	100%	
	不合理な手入力作業の一掃に取り組んだ学校の割合	20%	100%	100%	100%	100%	
	クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合	100%	40%	100%	100%	100%	
選択項目	3.学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校の割合	80%	100%	100%	100%	100%	
	11.児童生徒への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計している学校の割合	80%	100%	100%	100%	100%	
	19.職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れている学校の割合	60%	100%	100%	100%	100%	
課題と解決策の具体	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題	・校務DXを実現できるシステムはあっても学校内で検討する時間が少ない。また、ICT活用が苦手な職員が多く活用に不安があるため、何から取り組むべきかがわからず導入が進まない。 ・辰野町のやり方を覚えても教職員は数年で移動してしまい、導入されている機器やシステムの活用方法の定着や浸透が困難。					
	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題の解決策	・ICT支援員による継続的な研修の実施と積極的な授業支援、校務支援の実施。 ・報担当者会を定期的に開催し、その中で各校の課題や取組状況の共有、取り組みそうな内容の相談を実施。 ・校務DXチェックリストにより教育委員会が各校の進捗状況を確認し、実現できている学校の取組を他校とも共有。					
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	・令和6年度に校務系システムの更新を実施しているため、次の更新時期である令和11年度にはゼロトラストが実現できるよう、学校教職員と情報を共有しながら徐々に移行していく。 ・情報担当者会の定期開催、ICT支援員による現状確認や聞き取りにより学校現場における校務DXの状況や課題を共有し、校務DXを検討し実施していく。					